

ソフトウェア・シンポジウムのご説明

| | | |
|------------------------------|-------|---|
| ソフトウェア技術者協会について | ----- | 2 |
| ソフトウェア・シンポジウムの歴史 その1 | ----- | 3 |
| 第44回 Software Symposium 2024 | | |
| 第43回 Software Symposium 2023 | | |
| ソフトウェア・シンポジウムの歴史 その2 | ----- | 7 |
| 第42回 Software Symposium 2022 | | |
| : | | |
| 第1回 Software Symposium 1980 | | |

ソフトウェア技術者協会について

ソフトウェア技術者協会(SEA)は、ソフトウェアハウス、コンピュータメーカ、計算センター、エンドユーザ、大学、研究所など、それぞれ異なった環境に置かれているソフトウェア技術者あるいは研究者が、そうした社会組織の壁を越えて、各自の経験や技術を自由に交流しあうための「場」として、1985年12月に設立されました。

その主な活動は、機関誌SEAMAILの発行、支部および研究分科会の運営、セミナー/ワークショップ/シンポジウムなどのイベントの開催、および内外の関係諸団体との交流です。現在では、北は北海道から南は沖縄まで、設立の趣旨に賛同する多数の個人会員を擁するにいたりました。また法人賛助会員制度もあり、セミナーやワークショップへの社員の参加などに利用されています。支部は、東京以外に、関西、横浜、名古屋、九州、東北、広島、上海の各地区で設立されており、その他の地域でも設立準備をしています。分科会は、東京、関西、名古屋で、それぞれいくつかが活動しており、その他の支部でも、月例会やフォーラムが定期的に行われています。

「現在のソフトウェア界における最大の課題は、技術移転の促進である」といわれています。これまでわが国には、そのための適切な社会的メカニズムが欠けていたように思われます。SEAは、そうした欠落を補うべく、これからますます活発な活動を展開して行きたいと考えています。いままで日本にはなかったこの新しいプロフェッショナルソサイエティの発展のために、ぜひとも、あなたのお力を貸してください。

代表幹事

本多慶匡

幹事

| | | | | | | |
|-------|------|-------|-------|-------|------|-------|
| 荒木啓二郎 | 石川雅彦 | 伊藤昌夫 | 小笠原秀人 | 岡本圭史 | 小川明彦 | 落水浩一郎 |
| 岸田孝一 | 熊谷章 | 栗田太郎 | 小林修 | 小松久美子 | 酒匂寛 | 杉田義明 |
| 鈴木裕信 | 富松篤典 | 中谷多哉子 | 中山優紀 | 奈良隆正 | 野村行憲 | 端山毅 |
| 平尾一浩 | 三輪東 | 宮田一平 | 米島博司 | | | |

名誉会員

| | | | | | | |
|-------|------|-----|------|------|------|-------|
| 荒木啓二郎 | 岸田孝一 | 熊谷章 | 玉井哲雄 | 松原友夫 | 山崎利治 | 落水浩一郎 |
| 杉田義明 | 奈良隆正 | | | | | |

会計監事

中森博晃 乗松 聡

事務局

Office@sea.jp

〒157-0073 東京都世田谷区砧二丁目17番7号

株式会社ニルソフトウェア内

ソフトウェア技術者協会 事務局 伊藤昌夫

TEL: 03-6805-8931

ソフトウェア・シンポジウムの歴史 その1

第1回目のソフトウェア・シンポジウムは、1980年の末に開催された。主催は、ソフトウェア産業振興協会(当時)の技術委員会(SIA/TC)であった。

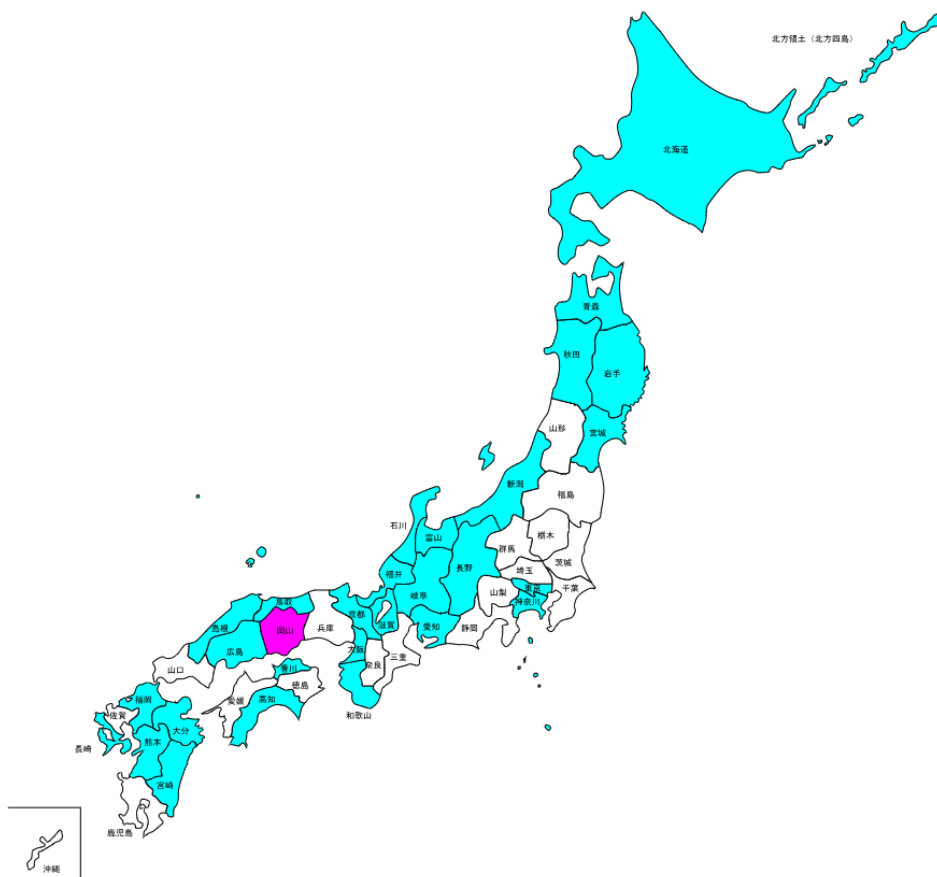
通常のアカデミックなコンファレンスとはちがって、開発現場で働くソフトウェア技術者たちが、自らの経験を通じて獲得した実践的な技術や知識を交流する場が必要だという認識は、この委員会の発足当時から強く存在していたのだが、ある技術調査のためのワーキング・グループ活動をきっかけとして、その成果発表を兼ねたイベントとして、このシンポジウムが企画されたのである。

それからほぼ1年後の1982年冬には、第2回目がやはり同様なコンテキストで開催された。この2回のプロトタイピングの成功にもとづいて、翌1983年以降のソフトウェア・シンポジウムは、毎年6月に定期的に行われるようになった。

[*] ただし 2002年はサッカー・ワールドカップの混乱を避けて7月開催。

1984年6月に、ソフト協(SIA)とセンター協(JIPCA)が合併して、新しい業界団体として情報産業振興協会(JISA)が結成され、シンポジウムの主催は、この新しい協会の技術委員会(JISA/STC)に移ったが、もともと、単なる業界団体の枠組みの中での活動にあきたらず、もっと広い場での技術者・研究者の交流を意図していたメンバーたちを中心に、翌1985年の12月には、ソフトウェア技術者協会(SEA)が創立された。そして、このシンポジウムは、SEAが主宰するさまざまなイベントのうちのメインの技術シンポジウムとして、今日に至っている。

1980年代には、開催場所はすべて東京であったが、1990年代に入ってから、地域情報化への貢献を考慮して、毎回適当な地方都市を巡歴することが通例になっている。



第 44 回 Software Symposium 2024 (<https://www.sea.jp/ss2024/>)

期日：2024 年 6 月 12 日（水曜日）～14 日（金曜日）

会場：ハイブリッド（出島メッセ長崎、Zoom）

参加者：146 人

主催：ソフトウェア技術者協会

後援：情報処理推進機構

協賛：長崎県、長崎IT技術者会、長崎県情報産業協会、ソフトウェアテスト技術振興協会、アジャイルプロセス協議会、オープンソースソフトウェア協会、情報サービス産業協会、情報処理学会、電子情報通信学会、日本ソフトウェア科学会、組込みシステム技術協会、日本SPIコンソーシアム、ITシステム可視化協議会、派生開発推進協議会、日本科学技術連盟、組込みソフトウェア管理者・技術者育成研究会、TOPPERSプロジェクト、PMI日本支部

実行委員長：中野 一英（NDKCOM）、池田 暁（クオリティアーツ）

プログラム委員長：日下部 茂（九州工業大学/長崎県立大学）、古畑 慶次（生産経営研究所）

ワーキング・グループ：8

WG1：未来のソフトウェアエンジニアはどんな人？ どうやって育成する？

WG2：今こそ考えたい！ データを活用した品質改善戦略！

WG3：増殖する技術的負債との付き合い方を考える

WG4：知識労働と AI

WG5：SigSQA 分科会新しい品質保証のかたちを目指して SS2024

～イマドキの品質保証をワーク探索、発見から技術継承や育成について議論～

WG6：エンジニアのトリセツ #8

「Work Sustainability」～Sustainable Working for Happy Engineer's Life～

WG7：コマンドとシェルスクリプトで 100 億件超の気象庁アメダスデータを処理する
ワーキンググループ

WG8：アジャイル開発での品質を議論しよう

WG9：モデリングソン

キーノート(1)：FRAM/SpecTRM を使った宇宙ステーションの異常予兆検知

野本 秀樹 氏（有人宇宙システム株式会社（JAMMS）

安全開発・ミッション保証部 IV&V 研究センター）

キーノート(2)：漁業者支援サービス「トリトンの矛」

水上 陽介 氏（オーシャンソリューションテクノロジー株式会社 代表取締役）

キーノート(3)：長崎の見方・食べ方・歩き方 ―長崎らしさとは何か？―

水嶋 英治 氏（長崎歴史文化博物館 館長）

論文・Future Presentation・報告セッション：5

論文採択数：21(研究論文 9 本、経験論文 5 本、事例報告 3 本、FP 4 本)

■最優秀論文賞

マルチモデル推測に基づいたソフトウェア信頼性予測精度の向上に向けて
呉敬馳、土肥正、岡村博之（広島大学先進理工系科学）

■論文奨励賞

オープンソースソフトウェアでの ChatGPT 提案コードの再利用動向分析
宮永翔多、崔恩瀨、西浦生成、水野修（京都工芸繊維大学）

■最優秀発表賞

LLM チャットボットに対する業務固有の安全性評価設計フレームワークの提案と検証
鴨生悠冬（日立製作所）、百瀬耕平（日本総合研究所）

第 43 回 Software Symposium 2023 (<https://www.sea.jp/ss2023/>)

期日：2023 年 6 月 12 日（月曜日）～14 日（水曜日）

会場：ハイブリッド（仙台国際センター 展示棟、Zoom）

参加者：127 人

主催：ソフトウェア技術者協会

後援：情報処理推進機構

協賛：宮城県情報サービス産業協会、マシンインテリジェンス研究会、
ソフトウェアテスト技術振興協会、アジャイルプロセス協議会、
オープンソースソフトウェア協会、情報サービス産業協会、
情報処理学会、ソフトウェア・メンテナンス研究会、電子情報通信学会、
日本ソフトウェア科学会、組込みシステム技術協会、
日本 SPI コンソーシアム、日本ファンクションポイントユーザ会、
派生開発推進協議会、日本科学技術連盟、
組込みソフトウェア管理者・技術者育成研究会、TOPPERS プロジェクト、
PMI 日本支部

実行委員長：澤田 恵介（仙台高等専門学校）、福川 優（パイオニアシステムテクノロジー）

プログラム委員長：岡本 圭史（仙台高等専門学校）、根本 紀之（東京エレクトロン）

プログラム副委員長：小楠 聡美（HBA）

ワーキング・グループ：10

WG1:DX の失敗は「プロセス設計」にあり！

～DX を成功に導くプロセス設計を体験してみよう～

WG2:SEA SigSQA 分科会新しい品質保証のかたちを目指して SS2023

WG3:テストに対する視野を広げる会

WG4:レビューの基本に立ち返り、今とこれからのレビューを再考する

WG5:技術的負債の正体を暴き、増殖させない予防策を考える

WG6:エンジニアの処世術 ～企業人の側面～

WG7:定理証明支援ツール Isabelle を使ってみよう

WG8:エンジニアのトリセツ #7+10 ～妄想WG SS2033「理想の働き方実現集団

“ウルトラ 7WG”：エンジニアの社会貢献とスキルアップ！これまでの10年を振り返る」

WG9:アジャイル開発での品質を議論しよう～QAtoAQパターンをネタに

WG10:AIに負けないソフトウェア技術者になる！

キーノート(1)：機器の知能化で拓く近未来医療

本間 経康 教授（東北大学）

キーノート(2)：ひと・地域・文化・産業をつなぎはぐくむ秋保ワイナリーの実践

毛利 親房 氏（秋保ワイナリー／仙台秋保醸造所）

寿楽 浩太 教授（東京電機大学）

キーノート(3)：Planetary Locomotion－流体力を利用した新しい惑星探査手段の提案－

永井 大樹 教授（東北大学 流体科学研究所）

論文・Future Presentation・報告セッション：6

論文採択数：18(研究論文 6本，経験論文 6本，事例報告 2本，FP 4本)

■最優秀論文賞

[経験論文] 「テストからはじめよ」～忍者式テスト20年の実践から～

深谷 美和，関 将俊（キヤノンメディカルシステムズ）

■論文奨励賞

[研究論文] 技術的負債に関する課題票の単語分散表現を用いたテキスト分類

田口 舞奈，木村 裕太，大平 雅雄（和歌山大学）

[研究論文] ビルドエラーを引き起こすDockerfileの依存関係の分析

坂本 廉也，東 裕之輔，大平 雅雄（和歌山大学）

[研究論文] 除雪出動決定支援のための除雪関連情報共有サイトの構築

大倉 博貴，横山 想一郎，山下 倫央，川村 秀憲（北海道大学）

[研究論文] 人物追跡手法とマッチングアルゴリズムを用いた

路線バスにおける乗客OD推定

西浦 翼，横山 想一郎，山下 倫央，川村 秀憲（北海道大学）

佐藤 好美，長谷川 怜，平澤 幸（シーズラボ）

■最優秀発表賞

[事例報告] Generative AI とソフトウェア開発への応用の試行

酒匂 寛（Designers' Den）

ソフトウェア・シンポジウムの歴史 その2

第42回 Software Symposium 2022

期日：2022年6月8日（水曜日）～10日（金曜日）

会場：いわて県民情報交流センター（アイーナ） → オンラインとのハイブリッド開催

参加者：100人

実行委員長：漆原 憲博（ジェーエフピー）、野村 行憲（ワイノムラドットコム）

プログラム委員長：岡本 圭史（仙台高等専門学校）、小田 朋宏（SRA）

第41回 Software Symposium 2021

期日：2021年6月2日（水曜日）～4日（金曜日）

会場：J:COM ホルトホール大分 → オンライン開催

参加者：127人

実行委員長：森 秀文（大分県情報サービス産業協会）、吉田 和幸（大分大学）

プログラム委員長：梅田 政信（九州工業大学）、小田 朋宏（SRA）、日下部 茂（長崎県立大学）

第40回 Software Symposium 2020

期日：2020年6月17日（水曜日）～18日（木曜日）

会場：いわて県民情報交流センター（アイーナ） → オンライン開催

参加者：154人

実行委員長：野村 行憲（岩手県立産業技術短期大学校）、漆原 憲博（ジェーエフピー）

プログラム委員長：日下部 茂（長崎県立大学）、河野 哲也（ディー・エヌ・エー）

第39回 Software Symposium 2019

期日：2019年6月5日（水曜日）～7日（金曜日）

会場：熊本市国際交流会館

参加者：153名

基調テーマ：Evolution of SE Technologies: Looking Back and Looking Forward

実行委員長：荒木 啓二郎（熊本高等専門学校）、富松 篤典（電盛社）

プログラム委員長：栗田 太郎（ソニー）、末吉 敏則（熊本大学）

第38回 Software Symposium 2018

期日：2018年6月6日（水曜日）～8日（金曜日）

会場：かでの2・7（札幌）

参加者：107名

基調テーマ：魅力的な「ソフトウェア開発」を目指して

実行委員長：中野 秀男（帝塚山学院大学）、本多 慶匡（東京エレクトロン）

プログラム委員長：安達 賢二（HBA）、

落水 浩一郎（University of Information Technology, Myanmar）

第37回 Software Symposium 2017

期日：2017年6月7日（水）～9日（金）

会場：宮崎市民プラザ

参加者：120名

基調テーマ：開かれたソフトウェア開発

実行委員長：荒木 啓二郎（九州大学）、小笠原 秀人（東芝）

プログラム委員長：片山 徹郎（宮崎大学）、栗田 太郎（ソニー）

第36回 Software Symposium 2016

期日：2016年6月5日（日）～8日（水）

会場：米子コンベンションセンター BIG SHIP

参加者：115名

基調テーマ：魅力的な「ソフトウェア開発」

実行委員長：宮田 一平（アイエックス・ナレッジ）、松本 健一（奈良先端科学技術大学院大学）

プログラム委員長：小笠原 秀人（東芝）、大平 雅雄（和歌山大学）

第35回 Software Symposium 2015

期日：2015年6月14日（日）～17日（水）

会場：県民交流プラザ・和歌山ビッグ愛

参加者：127名

基調テーマ：ソフトウェア開発の未来

実行委員長：鯨坂 恒夫（和歌山大学）、新谷 勝利（新谷 IT コンサルティング）

プログラム委員長：小笠原 秀人（東芝）、西 康晴（電気通信大学）

プログラム副委員長：大平 雅雄（和歌山大学）

第34回 Software Symposium 2014

期日：2014年6月8日（日）～11日（水）

会場：秋田市にぎわい交流館 AU（あう）

参加者：137名

基調テーマ：技術革新

実行委員長：落水 浩一郎（北陸先端科学技術大学院大学）

新谷 勝利（新谷 IT コンサルティング）

プログラム委員長：西 康晴（電気通信大学）、野村 行憲（アイシーエス）

第33回 Software Symposium 2013

期日：2013年7月7日（日曜日）～10日（水曜日）

会場：長良川国際会議場

参加者：140名

実行委員長：奈良 隆正（NARAコンサルティング）、山本 修一郎（名古屋大学）

プログラム委員長：野呂 昌満 (南山大学), 端山 毅 (NTTデータ)

第32回 Software Symposium 2012

期日：2012年6月12日(火)～14日(木)

会場：AOSSA (福井市)

参加者：143名

実行委員長：中野 秀男 (大阪市立大学)

プログラム委員長：伊藤 昌夫 (ニルソフトウェア), 栗田 太郎 (フェリカネットワークス)
鈴木 正人 (北陸先端科学技術大学院大学)

第31回 Software Symposium 2011

期日：2011年6月8日(水)～10日(金)

会場：長崎ブリックホール(長崎県長崎市)

参加者：109名

実行委員長：中野 一英 (NDKCOM), 田中 一夫 (アイエックス・ナレッジ)

プログラム委員長：栗田 太郎 (フェリカネットワークス), 檜崎 修二 (長崎大学)

第30回 Software Symposium 2010

期日：2010年6月9日(水)～11日(金)

会場：横浜市開港記念会館(神奈川県横浜市)

参加者：ワーキング会議63名, 公開講座64名

実行委員長：熊谷章 (タオベアーズ), 小池太 (日立製作所)

プログラム委員長：山田正樹 (メタボリックス), 飯田周作 (専修大学),
栗田太郎 (フェリカネットワークス)

第29回 Software Symposium 2009

期日：2009年6月17日(水)～19日(金)

会場：かでの2・7 北海道立道民活動センター (北海道札幌市)

参加者：90名

実行委員長：中谷多哉子(筑波大学/エス・ラグーン) 熊谷 章(タオベアーズ)

プログラム委員長：鈴木 裕信(鈴木裕信事務所) 中野 秀男(大阪市立大学)

第28回 Software Symposium 2008

期日：2008年6月25日(水)～27日(金)

会場：かがわ国際会議場 & サンポートホール高松 (香川県高松市)

参加者：112名

実行委員長：古川善吾(香川大学) 中谷多哉子(筑波大学/エス・ラグーン)

プログラム委員長：垂水浩幸(香川大学) 石川雅彦(SRA)

第27回 Software Symposium 2007

期日：2007年6月27日(水)～29日(金)
会場：新潟市 朱鷺メッセ(新潟・新潟市)
参加者：100名
実行委員長：実行委員長 小池 太(日立製作所)
プログラム委員長：中谷 多哉子(筑波大/S ラグーン), 小笠原 秀人(東芝)

第26回 Software Symposium 2006

期日：2006年7月19日～21日
会場：ウェルシティ熊本(熊本県・熊本市)
参加者：134名
実行委員長：荒木 啓二郎(九大), 富松 篤典(電盛社)
プログラム委員長：落水 浩一郎(JAIST), 小池 太(日立製作所)

第25回 Software Symposium 2005

期日：2005年6月8日～10日
会場：富山国際会議場(富山県・富山市)
参加者：154名
実行委員長：近藤 康二(ソニー)
プログラム委員長：菅原 耕一(富士フイルムソフトウェア), 藤枝 和宏(JAIST)

第24回 Software Symposium 2004

期日：2004年6月22日～24日
会場：岡山コンベンションホール (岡山県・岡山市)
参加者：154名
実行委員長：大西 荘一(岡山理科大)
プログラム委員長：飯田周作(専修大学), 鈴木郁子(シャープ)

第23回 Software Symposium 2003

期日：2003年7月9日～11日
会場：ホテルニューキャッスル(青森県・弘前市)
参加者：111名
基調テーマ：実践的ソフトウェア開発手法
実行委員長：高橋光裕(電力中央研究所)
プログラム委員長：東田雅宏(PFU), 蔵川圭(NAIST)

第22回 Software Symposium 2002

期日：2002年7月17日～19日
会場：松江テルサ(島根県松江市)
参加者：137名
基調テーマ：変革期のソフトウェア技術

実行委員長：田中一夫（JFITS）

プログラム委員長：青山幹雄（南山大学），阪井誠（SRA-KTL）

第21回 Software Symposium 2001

期日：2001年6月13日～15日

会場：高知会館（高知県・高知市）

参加者：136名

実行委員長：楠瀬昌彦（元・高知大学），熊谷章（PFU）

プログラム委員長：塩谷和範（SRA-KTL），松本健一（NAIST）

第20回 Software Symposium 2000

期日：2000年6月21日～23日

会場：金沢市文化ホール（石川県・金沢市）

参加者：161名

実行委員長：落水浩一郎（北陸先端科学技術大学院大学）

新森昭宏（インテック W&G インフォマティクス）

プログラム委員長：新田稔（プライスウォーターハウスクーパースコンサルタント）

野呂昌満（南山大学）

第19回 Software Symposium 1999

期日：1999年6月16日～18日

会場：盛岡マリオス

参加者：116名

実行委員長：熊谷章（PFU），野村行憲（ICS）

プログラム委員長：鯨坂恒夫（和歌山大学），端山毅（NTT Data）

第18回 Software Symposium 1998

期日：1998年6月17日～19日

会場：大阪市立大学（大阪府・大阪市）

参加者：193名

基調テーマ：共鳴と発展

実行委員長：中野秀男（大阪市立大学），田中一夫（JFITS）

プログラム委員長：落水浩一郎（JAIST），伊藤昌夫（ニルソフトウェア）

第17回 Software Symposium 1997

期日：1997年6月18日～20日

会場：福岡ソフトリサーチパーク（福岡県・福岡市）

参加者：208名

実行委員長：武田淳男（安川電機），高橋光裕（電力中央研究所）

プログラム委員長：荒木啓二郎（九州大学），酒匂寛（Designer's Den）

第16回 Software Symposium 1996

期日：1996年6月5日～7日

会場：広島国際会議場（広島県・広島市）

参加者：144名

基調テーマ：地域社会から「知域」社会へ

実行委員長：坂本啓司（オムロン）

プログラム委員長：大場充（広島市立大学），高橋光裕（電力中央研究所）

第15回 Software Symposium 1995

期日：1995年6月13日～16日

会場：ラフォーレ琵琶湖（滋賀県・守山市）

参加者：160名

実行委員長：中野秀男（大阪市大）

プログラム委員長：佐伯元司（東工大），坂本啓司（オムロン）

第14回 Software Symposium 1994

期日：1994年6月15日～17日

会場：金森ホール（北海道・函館市）

参加者：101名

実行委員長：杉田義明（日本NCD）

プログラム委員長：玉井哲雄（東京大学），渡邊雄一（アスキー）

第13回 Software Symposium 1993

期日：1993年6月9日～11日

会場：仙台市戦災復興記念館（宮城県・仙台市）

参加者：170名

基調テーマ：ダウンサイジング時代の新パラダイムを探る

実行委員長：野口正一（日本大学），山本保（東北コンピュータ・サービス）

プログラム委員長：二木厚吉（北陸先端科学技術大学院大学），堀江進（日本電気ソフトウェア）

第12回 Software Symposium 1992

期日：1992年6月6日～11日

会場：長野県農協ビル（長野県・長野市）

参加者：160名

基調テーマ：ネットワーク時代における分散開発環境

実行委員長：市川寛（電算）

プログラム委員長：岸田孝一（SRA），中野秀男（大阪大学）

第11回 Software Symposium 1991

期日：1991年6月11日～12日
会場：名古屋国際会議場（愛知県・名古屋市）
参加者：280名
実行委員長：野村敏次（日本電子計算）
プログラム委員長：落水浩一郎（静岡大学），熊谷章（PFU）

第10回 Software Symposium 1990

期日：1990年6月7日～8日
会場：京都リサーチパーク（京都府・京都市）
参加者：280名
実行委員長：盛田政敏（神戸コンピューターサービス）
プログラム委員長：鳥居宏次（大阪大学），臼井義美（日本電子計算）

第9回 Software Symposium 1989

期日：1989年6月14日～15日
会場：虎の門パストラル（東京・港区）
参加者：270名
実行委員長：林香（SRA）
プログラム委員長：飯沢恒（三菱電機東部コンピュータシステム）
藤野晃延（富士ゼロックス情報システム）

第8回 Software Symposium 1988

期日：1988年6月8日～9日
会場：虎の門パストラル（東京・港区）
参加者：約300名
実行委員長：高田佳彦（日本電子計算）
プログラム委員長：藤野晃延（富士ゼロックス情報システム），林香（SRA）

第7回 Software Symposium 1987

期日：1987年6月4日～5日
会場：虎の門パストラル（東京・港区）
参加者：約350名
実行委員長：岡田正志（日本電気ソフトウェア）
プログラム委員長：高田佳彦（日本電子計算），林香（SRA）

第6回 Software Symposium 1986

期日：1986年6月4日～5日
会場：虎の門パストラル（東京・港区）

参加者：約 300 名
実行委員長：村山公士 (TDC)
プログラム委員長：岡田正志 (日本電気ソフトウェア)

第 5 回 Software Symposium 1985

期日：1985 年 6 月 6 日～7 日
会場：虎の門パストラル (東京・港区)
参加者：約 300 名
実行委員長：遠藤靖彦 (CAC)
プログラム委員長：村山公士 (TDC)

第 4 回 Software Symposium 1984

期日：1984 年 6 月 5 日～6 日
会場：ホテル高輪 (東京・港区)
参加者：約 300 名
実行委員長：玉井哲雄 (三菱総合研究所)
プログラム委員長：遠藤靖彦 (CAC)

第 3 回 Software Symposium 1983

期日：1983 年 6 月 20 日～21 日
参加者：約 300 名
実行委員長：吉村鐵太郎 (管理工学研究所)
プログラム委員長：玉井哲雄 (三菱総合研究所)

第 2 回 Software Symposium 1982

期日：1982 年 2 月 9 日～10 日
会場：都市センター (東京・千代田区)
参加者：約 230 名
実行委員長：鈴木弘 (構造計画研究所)
プログラム委員長：吉村鐵太郎 (管理工学研究所)

第 1 回 Software Symposium 1980

期日：1980 年 12 月 10 日～11 日
会場：都市センター (東京・千代田区)
参加者：約 200 名
実行委員長：岸田孝一 (SRA)
プログラム委員長：鈴木弘 (構造計画研究所)
